

# 2016年3月期 第1四半期決算報告

2015/8/10

第一生命保険株式会社

一生涯のパートナー

**第一生命**

- 第一生命保険の稲垣です。  
本日は、第一生命グループの2016年3月期第1四半期の決算報告にご参加いただきまして、ありがとうございます。
- 早速ですが、いつものように、私から資料に沿って決算内容をご説明し、残りの時間を質疑応答とさせていただきます。
- 1ページをご覧ください。

- 第1四半期連結業績は、増収・増益。国内生保事業において、保険販売は堅調に推移し、資産運用収支も良好に推移。第一フロンティア生命の責任準備金繰入額が一部戻入りに転じたことや、当期より米プロテクティブ社の損益が連結対象になったことが牽引。
- 通期の業績予想は据置き。これは、第一生命単体において、第2四半期以降には高水準のキャピタル損益を見込まないこと、また、グループ各社の利益について、今後の国内外の金融環境の推移を見守る必要があるため。
- 2015年6月末のグループ・エンベディッド・バリュー(試算値)は、良好な経済環境を背景に増加し、6兆円を超過。

- 今回の決算のポイントを以下の3点にまとめました。
- 第一に、業績についてお話しします。国内生保事業において、保険販売は堅調に推移し、資産運用収支も良好でした。また、第一フロンティア生命の責任準備金が一部戻入りに転じたことや、当期より米プロテクティブ社の損益が連結対象になったことなどで、連結業績は増収・増益となりました。
- 第二に、業績予想についてお話しします。第1四半期の業績は、通期の業績予想に対して高い進捗となりましたが、業績予想は据え置きとしています。これは、第一生命単体における高水準のキャピタル損益は、第1四半期に見込んでいたものであり、第2四半期以降は同水準の実現益を見込んでいないことや、グループ各社の利益についても、今後の国内外の金融環境の推移を見守る必要があるためです。1株当たりの配当予想も35円を据え置いています。
- 第三は、エンベディッド・バリューについてです。金利の上昇など良好な経済環境の影響や、新契約の獲得により、グループ全体のエンベディッド・バリューは6兆円を超過し、過去最高値を更新しました。グループ各社においても、エンベディッド・バリューが増加しております。
- 2ページをご覧ください。

■ 連結経常収益・連結経常利益・連結純利益<sup>(1)</sup>ともに大幅増加

(億円)

	15/3期 1Q	16/3期 1Q (a)	前年同期比	
			増減額	増減率
連結経常収益	16,540	18,710	+2,169	+13%
第一生命単体	11,395	11,600	+204	+2%
連結経常利益	1,249	1,810	+561	+45%
第一生命単体	1,226	1,359	+133	+11%
連結純利益 <sup>(1)</sup>	684	1,152	+467	+68%
第一生命単体	680	768	+88	+13%

<参考>

2015/5/15 発表予想(b)	進捗率(a/b)
41,240	28%
3,690	49%
3,010	45%
1,610	72%
1,190	65%

(1) 連結純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益を記載しています。

- 業績ハイライトをお示ししています。
- 連結経常収益は前年同期比13%増の1兆8,710億円、連結経常利益は同45%増の1,810億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同68%増の1,152億円と、大幅な増収・増益となりました。
- 通期予想に対する進捗率は経常利益で49%、純利益で72%と高い水準になりました。
- 3ページをご覧ください。

■ 第一フロンティアの利益改善、プロテクティブの連結効果が業績に貢献

連結損益計算書(要約)<sup>(1)</sup>

	(億円)		
	15/3期 1Q	16/3期 1Q	増減
経常収益	16,540	18,710	+2,169
保険料等収入	12,252	13,362	+1,110
資産運用収益	3,535	4,446	+910
うち利息・配当金等収入	1,993	2,524	+530
うち有価証券売却益	724	993	+269
うち特別勘定資産運用益	725	240	△485
その他経常収益	751	900	+148
経常費用	15,291	16,899	+1,608
うち保険金等支払金	7,552	10,900	+3,347
うち責任準備金等繰入額	5,049	2,981	△2,067
うち資産運用費用	346	463	+117
うち有価証券売却損	47	130	+83
うち有価証券評価損	3	14	+10
うち金融派生商品費用	10	110	+100
うち事業費	1,284	1,452	+167
経常利益	1,249	1,810	+561
特別利益	0	0	△0
特別損失	49	58	+9
契約者配当準備金繰入額	204	229	+25
税金等調整前四半期純利益	996	1,522	+526
法人税等合計	311	370	+58
非支配株主に帰属する四半期純利益	0	0	+0
親会社株主に帰属する四半期純利益	684	1,152	+467

連結貸借対照表(要約)

	(億円)		
	15/3末	15/6末	増減
資産の部合計	498,372	502,536	+4,164
うち現預金・コール	12,538	10,620	△1,918
うち買入金銭債権	2,658	2,586	△71
うち有価証券	411,054	417,616	+6,562
うち貸付金	38,981	38,230	△750
うち有形固定資産	12,170	12,183	+12
うち繰延税金資産	13	15	+1
負債の部合計	462,472	467,780	+5,307
うち保険契約準備金	425,470	429,201	+3,731
うち責任準備金	416,347	420,155	+3,808
うち退職給付に係る負債	3,313	3,331	+18
うち価格変動準備金	1,362	1,408	+45
うち繰延税金負債	6,433	5,607	△826
純資産の部合計	35,899	34,756	△1,143
うち株主資本合計	10,296	10,804	+508
うちその他の包括利益累計額合計	25,594	23,944	△1,650
うちその他有価証券評価差額金	25,282	23,550	△1,731
うち土地再評価差額金	△334	△340	△6

(1) 特別勘定資産運用損益は、責任準備金の戻入れ/繰入れで相殺されるため、経常利益に影響するものではありません。

- 連結主要収支の詳細をご説明します。
- 経常収益は、主にプロテクティブ社を連結したことで、保険料等収入が前年同期比約1,100億円の増加、資産運用収益が同約900億円増加しました。
- 経常費用項目では、保険金等支払金が同約3,300億円増加しておりますが、増加分のうち約半分は、第一生命において、一部の厚生年金基金の解散に伴って団体年金の解約が発生したためです。ただし、この影響は責任準備金の戻入れを通じて相殺されるため、利益への影響はほとんどありません。このほか、第一フロンティア生命において、責任準備金の一部戻入れが生じたことなどにより、責任準備金等繰入額は同約2,100億円の減少となりました。事業費の増加は、主にプロテクティブ社の連結によるものです。
- 以上のことから、経常利益・純利益は大幅に改善しました。
- 4ページをご覧ください。

	【第一生命】 (億円)			【第一フロンティア生命】 (億円)			【米プロテクトティブ】 <sup>(1)(2)</sup> (百万米ドル)			【豪TAL】 <sup>(2)</sup> (百万豪ドル)			【連結】 (億円)		
	15/3期 1Q	16/3期 1Q	前年 同期比	15/3期 1Q	16/3期 1Q	前年 同期比	15/3期 1Q	16/3期 1Q	前年 同期比	15/3期 1Q	16/3期 1Q	前年 同期比	15/3期 1Q	16/3期 1Q	前年 同期比
経常収益	11,395	11,600	+2%	4,583	4,890	+7%	--	1,837	--	793	796	+0%	16,540	18,710	+13%
保険料等収入	7,567	7,252	△4%	4,039	4,317	+7%	--	926	--	665	690	+4%	12,252	13,362	+9%
資産運用収益	2,999	3,307	+10%	544	573	+5%	--	735	--	59	7	△88%	3,535	4,446	+26%
経常費用	10,169	10,241	+1%	4,597	4,546	△1%	--	1,744	--	738	768	+4%	15,291	16,899	+11%
保険金等支払金	6,246	7,790	+25%	887	1,487	+68%	--	1,002	--	444	445	+0%	7,552	10,900	+44%
責任準備金等繰入額	1,639	21	△99%	3,454	2,806	△19%	--	432	--	116	94	△19%	5,049	2,981	△41%
資産運用費用	350	655	+87%	34	18	△47%	--	22	--	8	56	+581%	346	463	+34%
事業費	935	934	△0%	198	210	+6%	--	114	--	141	148	+5%	1,284	1,452	+13%
経常利益(△は損失)	1,226	1,359	+11%	△13	343	--	--	92	--	55	28	△49%	1,249	1,810	+45%
特別利益	0	0	△14%	--	--	--	--	--	--	--	--	--	0	0	△9%
特別損失	46	52	+13%	3	5	+91%	--	--	--	--	--	--	49	58	+18%
純利益 <sup>(3)</sup> (△は損失)	680	768	+13%	△17	309	--	--	62	--	42	27	△35%	684	1,152	+68%

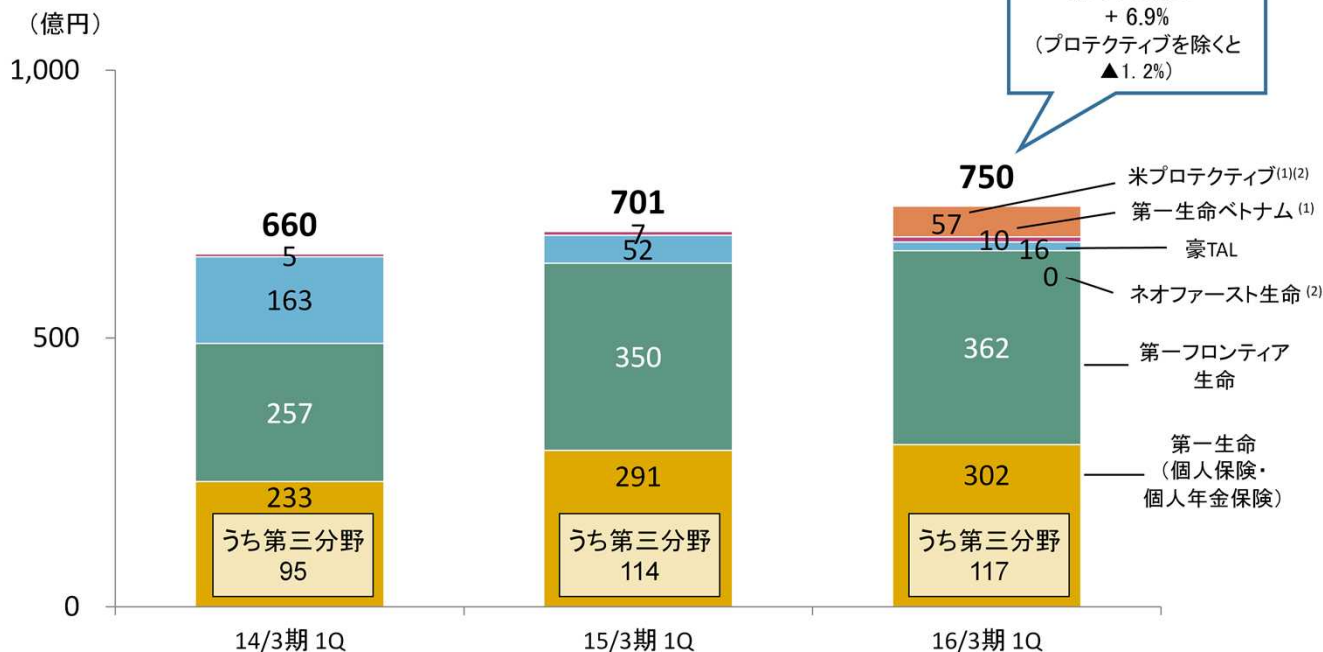
(1) 米プロテクトティブの数値は、2015年2・3月の実績です。

(2) 米プロテクトティブおよび豪TALの数値は、各国の会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しています。連結の際には、それぞれ1米ドル=120.17円、1豪ドル=95.50円(15/3期1Q)、93.93円(16/3期1Q)で円換算しています。

(3) 連結純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益を記載しています。

- グループ各社の決算についてコメントします。
- 第一生命単体では、低金利環境が継続した影響で、一時払商品の販売が減少し、保険料等収入は前年同期比4%減となりました。また、保険金等支払金や責任準備金等繰入額においては、先ほどご説明したとおり、入り繰りが発生しました。ネットの資産運用収支は、前年同期なみの水準となりましたが、順ぎやは、利息配当金等収入の増加などにより拡大しました。以上のことから、純利益は同13%増となりました。
- 第一フロンティア生命では、外貨建て商品を中心に高水準の保険販売が続ぎ、保険料等収入は同7%増となりました。経常費用は、外国金利上昇に伴う会計的要因により、責任準備金の一部戻入れになったため、同1%減少し、純利益は309億円となりました。
- オーストラリアのTAL社の保険料等収入は、現地通貨建てで同4%増となりました。保険金等の支払請求は落ち着きを見せており、責任準備金の繰入負担が軽減するなど、実質的な収益力は改善しましたが、現地金利の上昇に伴う会計的要因により、純利益は同35%減となりました。
- 5ページをご覧ください。

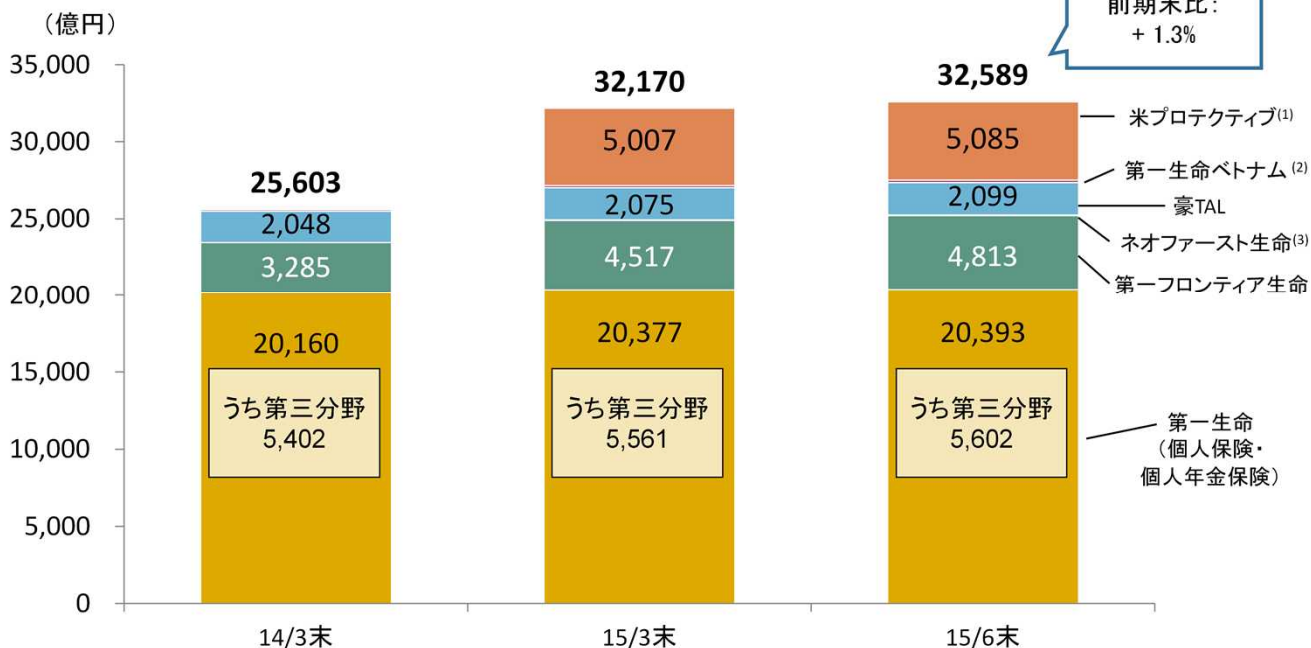
第一生命グループの新契約年換算保険料



(1) 米プロテクティブ、第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。  
(2) 米プロテクティブ、ネオファースト生命の実績は、16/3期 1Qのみを記載しています。

- 新契約の動向についてご説明します。
- グラフは第一生命グループの新契約を年換算保険料で示しており、以下は全て年換算保険料ベースで説明しています。
- 第一生命単体の新契約は、一時払商品の販売が減少しましたが、年金商品や第三分野商品が牽引し、前年同期比3.9%の増加となりました。
- 第一フロンティア生命の新契約は、高水準の保険販売を背景に、同3.4%増となりました。詳細は12ページで説明いたします。
- TALの新契約は現地通貨建てで同67.3%減、円建てで同67.8%減となりました。詳細は14ページで説明いたします。
- 第一生命ベトナムの新契約は現地通貨建てで同31.5%増、円建てで同50.3%増となりました。
- 以上から、グループ全体の新契約は、プロテクティブ社による増加要因を除いたベースで、同1.2%減となりました。
- なお、プロテクティブ社の新契約は円建てで約57億円でしたが、これを含めるとグループ全体の新契約は同6.9%の増加となりました。
- 6ページをご覧ください。

第一生命グループの保有契約年換算保険料

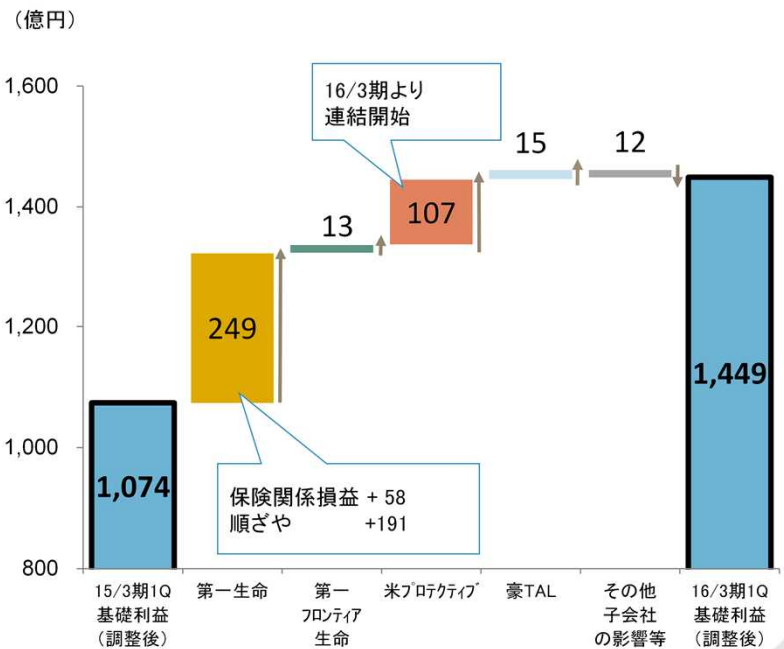
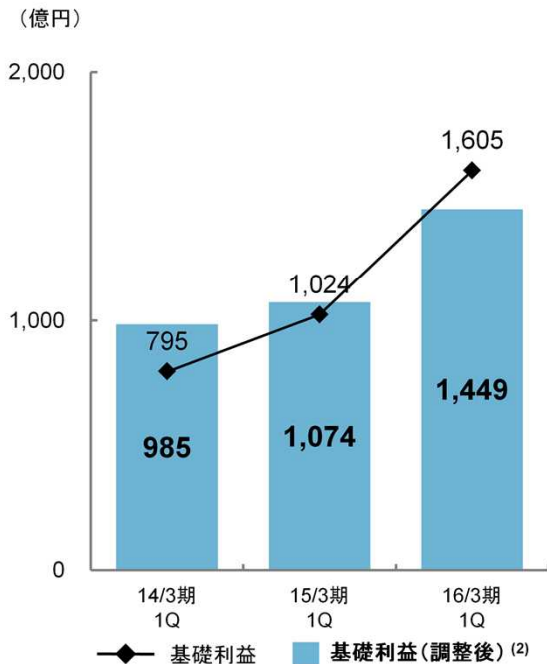


(1) 米プロテクティブの決算日は12月31日です。15/3末の実績は完全子会社化(2015年2月1日)時点の数値を記載しています。  
 (2) 第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。14/3末、15/3末、15/6末の実績はそれぞれ 108 億円、155 億円、161 億円です。  
 (3) ネオファースト生命については、完全子会社化以降の実績を記載しています。15/3末、15/6末の実績はそれぞれ 37 億円、36 億円です。

- 保有契約の動向についてご説明します。こちらも年換算保険料ベースで説明しています。
- 第一生命単体の保有契約は前期末比微増となりました。うち、第三分野の保有契約は同0.7%の増加となりました。第一フロンティア生命は同6.5%増、TALは現地通貨建てで同0.9%減、円建てで同1.1%増となりました。第一生命ベトナムは堅調に保有契約を積み上げました。プロテクティブ社の保有契約は、円建てで微増となりました。
- その結果、グループ全体の保有契約は同1.3%増とプラス成長を維持しました。
- 7ページをご覧ください。

基礎利益 (1)(2)

基礎利益(調整後)の変動要因 (1)(2)

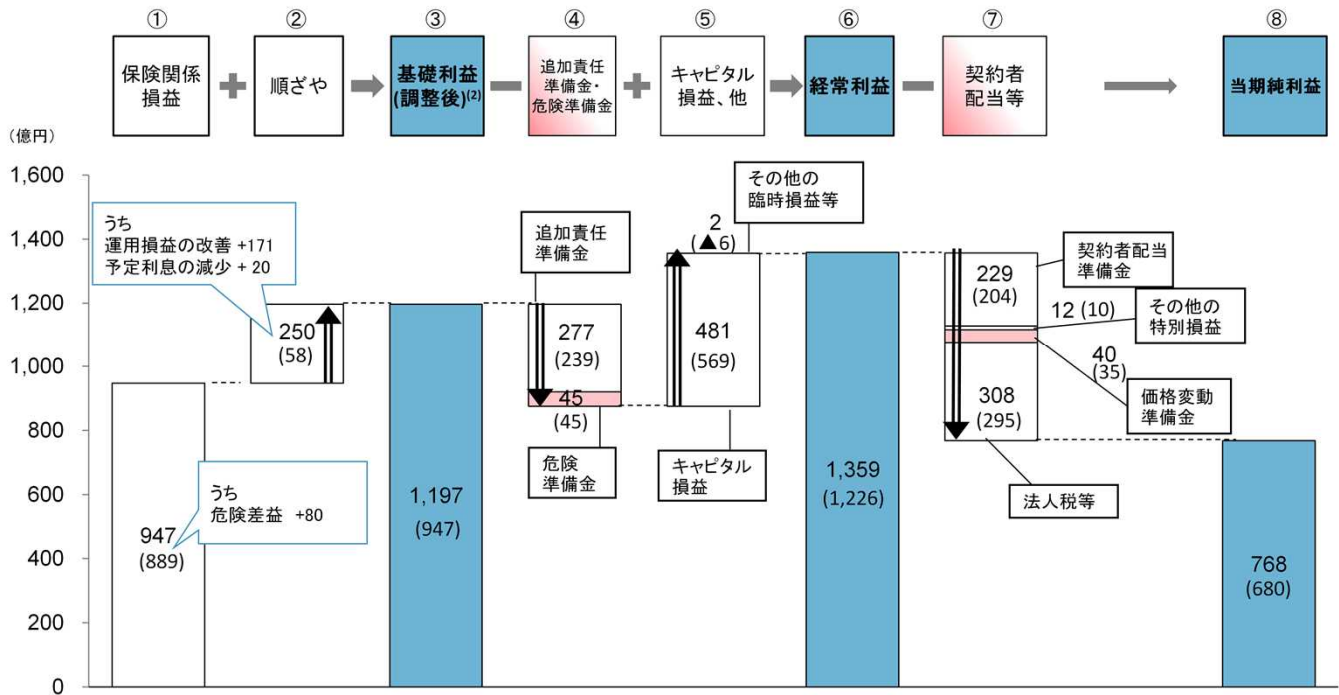


(1) 第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命(16/3期1Qのみ)の基礎利益、米プロテクトイブ(16/3期1Qのみ)の税引前営業利益、TALの修正利益(税引前換算)、第一生命ベトナムの税引前利益を合算し、第一生命グループ内の内部取引の一部を相殺。

(2) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 ± 変額保険の最低保証リスクに係る責任準備金繰入(戻入)額 ± 定額保険の市場価格調整に係る責任準備金繰入(戻入)額

- 第一生命グループの基礎利益についてご説明します。
- 市場変動による影響を除いた、調整後の基礎利益を棒グラフでお示していますが、前年同期の1,074億円から1,449億円へと、高い伸びを見せました。
- この変動要因について、右のグラフでご説明します。
- 第一生命単体では、順ざやが拡大し、また、保険関係損益も良好に推移したことで、調整後の基礎利益は大幅な改善となりました。
- また、プロテクトイブ社の貢献として、同社の税引前営業利益をグループ基礎利益に加えております。
- 8ページをご覧ください。





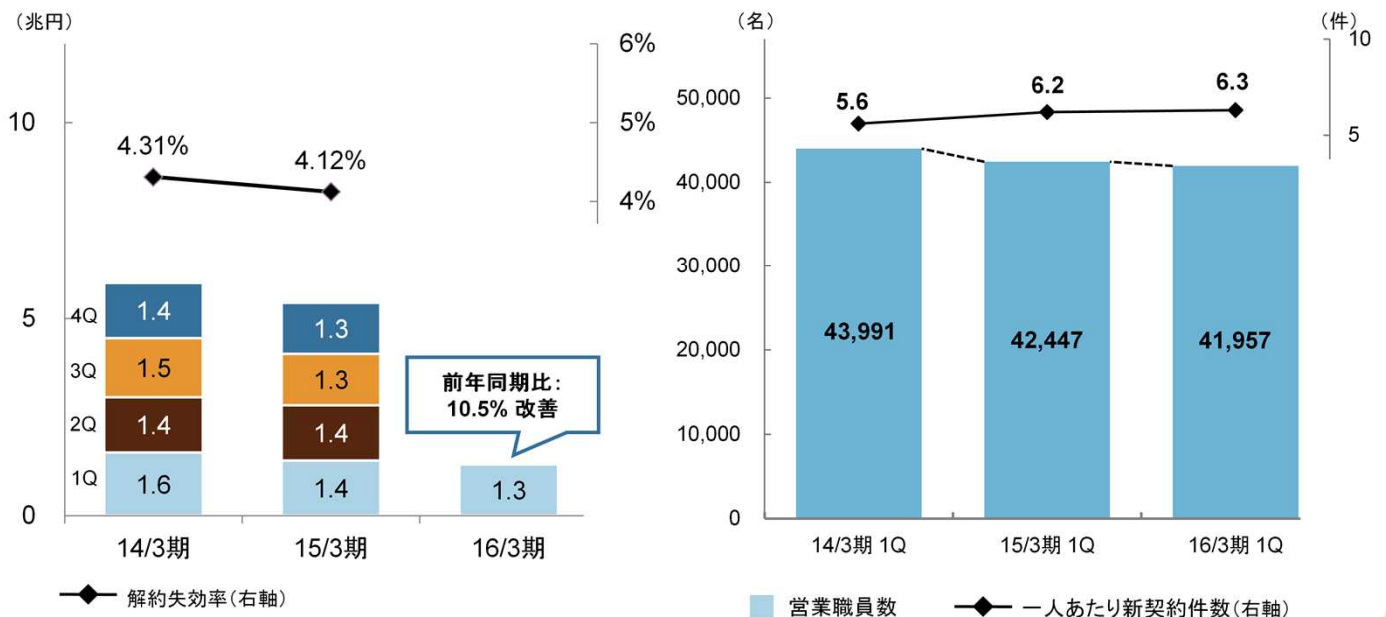
(1) 前年同期の数値を( )内に記載しています。

(2) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 ± 変額保険の最低保証リスクに係る責任準備金繰入(戻入)額 ± 定額保険の市場価格調整に係る責任準備金繰入(戻入)額

- 第一生命単体の状況についてご説明します。
- 先ほどご説明したとおり、第一生命では保険関係損益と、順ざやがともに改善しました。順ざや改善の要因は主に、利息配当金等収入の増加や、追加責任準備金の繰入による予定利息の減少です。調整後基礎利益は、前年同期比26%増となりました。
- このため、前年同期比で増加した追加責任準備金の繰入と、キャピタル損益の減少を考慮しても、経常利益・純利益は増加しました。
- 9ページをご覧ください。

解約失効高(個人保険・個人年金)

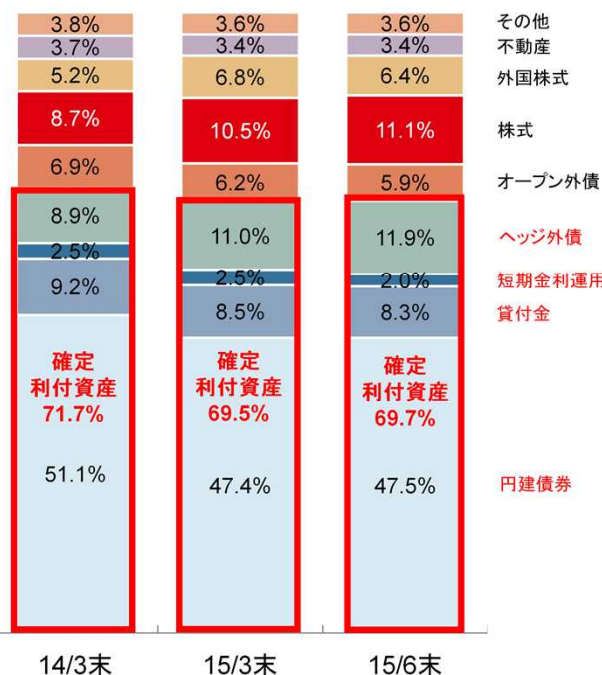
営業職員数および生産性 (1)(2)



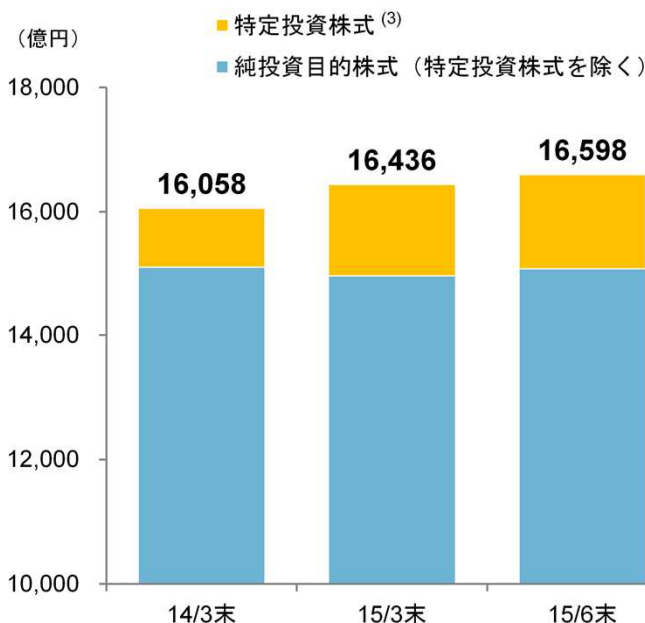
(1) 営業職員については、第一生命と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしている者のうち、その他補助的業務に従事する者を除いております。  
 (2) 各期間における新契約件数(転換含む)を分子、各期間の営業職員数(補助的業務に従事する者を除く)の平均値を分母として計算しています。

- 左のグラフは第一生命単体の解約失効高ならびに解約失効率の状況を示しています。継続的な解約失効対策の取組みにより、解約失効高は前年同期比で10.5%の改善となりました。
- 右のグラフは営業職員数と営業職員1人あたり新契約件数の推移を示しています。第2・第4四半期はEVレポートの開示により新契約価値で営業の効率性を示しておりますが、第1・第3四半期は代わりに件数で営業の効率性を示します。営業職員数は前年同期末との比較では減少したものの、前年度末との比較では増加し、約4万2,000名となりました。また、新契約件数は前年同期比で増加し、1人あたり新契約件数は改善しました。
- 10ページをご覧ください。

資産の構成(一般勘定) (1)



国内株式の簿価 (2)



(1) 貸借対照表価額ベース  
 (2) 国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)。  
 (3) 純投資目的以外の目的で保有する株式(非上場国内株式、みなし保有株式は除く)。

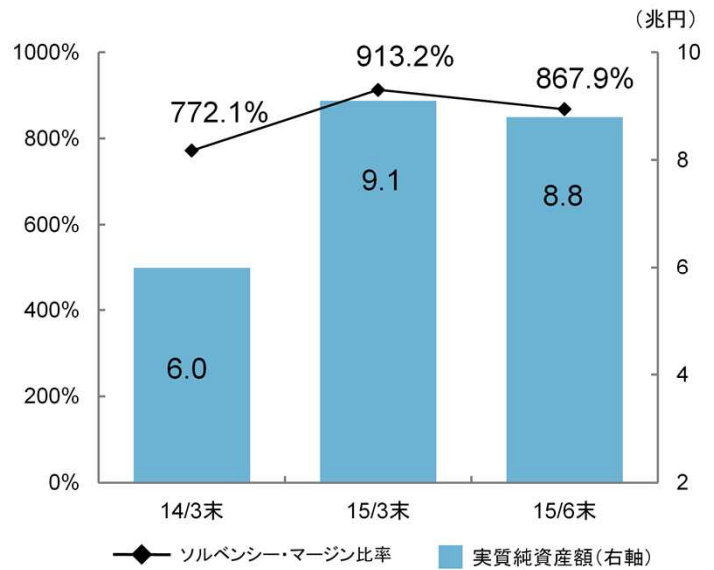
- 資産運用の状況についてご説明します。
- 左のグラフは第一生命の一般勘定資産の構成比を示しています。引き続き、ALMと厳格なリスク管理の考え方に基づいて、円建債券など円ベースの確定利付資産中心の運用を行っています。当四半期は、国内で低金利が継続したことを踏まえ、ヘッジ外債への配分を増やしました。
- 国内株式の構成比は、時価の変動を主な要因として増加しました。右のグラフでは、国内株式の簿価残高を、特定投資株式とそれ以外に分けてお示ししています。当四半期末の残高は、成長銘柄への投資を実行したため、前期末比で純投資目的の株式が増加しました。
- 11ページをご覧ください。

含み損益(一般勘定)

(億円)

	15/3末	15/6末	増減
有価証券	54,917	51,746	△3,170
国内債券	22,368	20,409	△1,958
国内株式	17,856	19,614	+1,758
外国証券	14,008	11,163	△2,845
不動産	755	755	△0
その他共計	55,507	52,316	△3,190

ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額



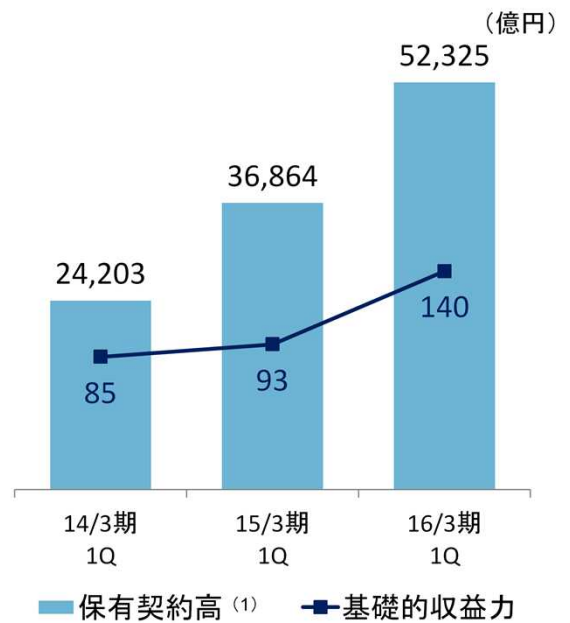
<参考> 連結ソルベンシー・マージン比率:  
2015年6月末 773.4%

- 第一生命単体の健全性についてご説明します。
- 左の表では一般勘定各資産の含み益の変化を示しています。前期末と比較しますと、株価上昇により国内株式の含み益が増加しましたが、内外の金利上昇により国内債券などの含み益が減少し、一般勘定資産全体で含み益は約3,200億円減少しました。
- 右の折れ線グラフで示したソルベンシー・マージン比率は、利益の積み上がりなどで中核的支払余力が充実しましたが、有価証券含み益が減少したことや、資産運用リスクが増加したことで、前期末に比べ45.3ポイント低下し、867.9%となりました。
- 12ページをご覧ください。

収支の状況

(億円)		
	15/3期 1Q	16/3期 1Q
経常収益	4,583	4,890
うち保険料等収入	4,039	4,317
うち変額商品	443	469
うち円建定額商品	710	654
うち外貨建定額商品	2,516	2,659
うち資産運用収益	544	573
うち最低保証リスクに対するヘッジ利益(A)	-	-
経常費用	4,597	4,546
うち責任準備金等繰入額(△は戻入)	3,454	2,806
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(B)	4	17
うち市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入額(C)	49	△ 170
うち危険準備金繰入額(D)	37	△ 44
うち資産運用費用	34	18
うち最低保証リスクに対するヘッジ損失(E)	19	28
経常利益(△は損失)	△ 13	343
純利益(△は損失)	△ 17	309
(参考)基礎的収益力	93	140
純利益 - (A) + (B) + (C) + (D) + (E)	93	140

保有契約高と基礎的収益力



(1) 保有契約高は各期間の末日時点

- 第一フロンティア生命の状況についてご説明します。
- 当四半期は、外貨建商品を中心に保険販売の好調が続き、保険料等収入は前年同期比6.9%増の約4,300億円となりました。保有契約高は約5.2兆円に達しています。
- 経常費用のうち、市場価格調整に係る責任準備金についてご説明します。前年同期には、外国金利の低下に伴い、責任準備金を繰り入れる必要がありました。当四半期は外国金利が上昇したため、170億円の戻入れとなりました。また、基礎的収益力が増加したこともあり、当四半期の利益は、前年同期の純損失から純利益に転じました。
- 基礎的収益力とは、会計利益に市場変動要因を調整した収益指標です。基礎的収益力は、右のグラフの通り、好調な保険販売を背景とする保有契約の積み上げに伴い、前年同期比で大幅に増加しました。
- 13ページをご覧ください。

- 年金事業と買収事業における危険差益の改善、運用収益の増加を主因として、税引前営業利益は約90百万ドル、純利益は約63百万ドルを計上。

主要業績

(百万米ドル)	
	16/3期 1Q
生保事業	3.4
買収事業	36.0
年金事業	38.1
ステープルバリュー事業	6.1
アセットプロテクション事業	4.0
コーポレート	1.8
税引前営業利益 Pre-tax Operating Earnings	89.7
法人税等	-29.9
キャピタル損益(運用収支)	-42.9
キャピタル損益(金融派生商品損益)	46.0
当期利益	62.8

<参考>

	15/3末
為替レート(米ドル)	120.17

セグメント業績動向

【生保事業】  
一時的な支出の増加、定期保険の収益性悪化、想定以下の危険差益により、営業利益は予算未達ペース。

【買収事業】  
過去に買収した既契約ブロックの一部における良好な危険差益により、営業利益は予算超過ペース。

【年金事業】  
定額年金・変額年金ともに利益貢献。特に定額年金における良好な危険差益が営業利益の予算超過に貢献。

【ステープルバリュー事業】  
資産残高は減少したものの、モーゲージローンにおける利息配当収入が増加したこと等により一定の利益を確保。

【アセットプロテクション事業】  
主力損保商品(主に車両保険)の好調な販売により、予算なみの営業利益を確保。

(1) ミプロテクティブの決算日は12月31日です。16/3期1Qの実績は、子会社化(2015年2月1日)以降、同年3月までの2ヶ月間の実績です。  
 (2) 税引前営業利益(Pre-tax Operating Earnings)とは、当期利益から資産運用やデリバティブにおけるキャピタル損益を控除した利益指標です。

- プロテクティブ社の状況についてご説明します。
- 同社においては、当社による買収完了日である今年2月1日時点で、資産・負債の洗い替えを実施したため、前年同期の数値はございません。また、同社の会計年度は12月末ですので、連結にあたっては3ヶ月の期ズレが存在します。したがって、当四半期の業績は、当社による買収日以降の2ヶ月分、すなわち2月・3月の業績となります。
- 当四半期の業績は、主に、年金事業と買収事業における危険差益の改善、運用収益の増加により、税引前営業利益は約90百万ドル、また、純利益は約63百万ドルとなりました。
- 純利益に関する通期の業績予想は230百万ドルですから、基本的には良好なスタートと言えますが、四半期ごとの利益には変動もあり得るため、今後の業績を引続き注視してまいります。
- 14ページをご覧ください。

主要業績

(百万豪ドル)

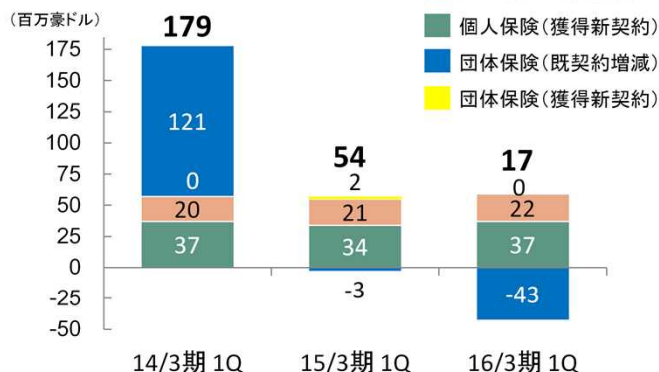
	15/3期 1Q	16/3期 1Q	前年 同期比
経常収益 (2)	793	796	+0%
うち保険料等収入 (2)	665	690	+4%
経常利益 (2)	55	28	△49%
純利益(A) (2)	42	27	△35%
修正額(B)	△ 8	18	
うち負債割引率の変化	△ 15	6	
うち償却負担	5	5	
その他	1	6	
修正利益=(A)+(B) (Underlying profit)	33	45	+36%

<参考>

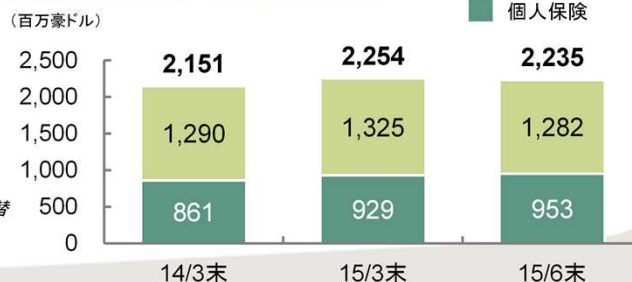
	14/6末	15/6末
為替レート(豪ドル)	95.50円	93.93円

(1) 連結対象の豪持株会社 (TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd) に係る数値  
 (2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております(修正額及び修正利益を除く)

新契約年換算保険料



保有契約年換算保険料



- TALの状況についてご説明します。
- 右上の、豪ドル建ての新契約年換算保険料は、個人保険で前年同期比8%増となりましたが、団体保険が一時的な要因で大幅減となり、全体として新契約は減少しました。これは、一部の団体保険における支払実績の改善を踏まえ、その契約の保険料率を引き下げたため、既契約部分がマイナスとなったためです。これを受け、保有契約年換算保険料も微減となりました。
- 一方、保険料等収入は前年同期比4%増となりました。また、保険金等の支払いや、支払請求に応じた備金の繰入れの状況は総じて良好でした。こうしたことから、修正利益は、同36%増となりました。
- しかし、会計上の利益は、金利変動を背景とする会計的影響により、同35%減少しました。
- 金利の上昇は国際会計基準を採用するTALのバランスシート構造上、利益を押し下げる要因になります。前年同期は金利が低下したため、純利益を約15百万豪ドル押し上げていましたが、当四半期は市場金利が上昇に転じ、純利益を約6百万豪ドル押し下げています。
- 15ページをご覧ください。

- 本第1四半期の連結業績は、通期の業績予想に対して高い進捗となったが、今後の金融・経済情勢の動向によって業績が変動する可能性があるため、現時点では業績予想を据え置き。

(億円)

	15/3期	16/3期(予)	増減
<b>連結経常収益</b>	<b>72,522</b>	<b>67,730</b>	<b>△ 4,792</b>
第一生命単体	47,984	41,240	△ 6,744
第一フロンティア	21,575	12,460	△ 9,115
プロテクティブ(百万米ドル)	-	8,890	+ 8,890
TAL(百万豪ドル)	3,166	3,440	+ 273
<b>連結経常利益</b>	<b>4,068</b>	<b>3,690</b>	<b>△ 378</b>
第一生命単体	4,087	3,010	△ 1,077
第一フロンティア	△ 197	140	+ 337
プロテクティブ(百万米ドル)	-	340	+ 340
TAL(百万豪ドル)	184	150	△ 34
<b>連結純利益<sup>(1)</sup></b>	<b>1,424</b>	<b>1,610</b>	<b>+ 185</b>
第一生命単体	1,521	1,190	△ 331
第一フロンティア	△ 219	110	+ 329
プロテクティブ(百万米ドル)	-	230	+ 230
TAL(百万豪ドル)	131	100	△ 31
<b>1株当たり配当金</b>	<b>28円</b>	<b>35円</b>	<b>+7円</b>

(1) 連結純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益を記載しています。

(参考:基礎利益)

第一生命グループ	4,720	5,100程度	+379
第一生命単体	4,582	4,200程度	△ 382

- 続いて第一生命グループの2016年3月期連結業績予想についてご説明します。
- 冒頭でお示した通り、当四半期の業績、とりわけ純利益は、通期業績予想に対して高い進捗となりました。
- しかし、利益を牽引した要因を個別に見ると、第一生命単体における有価証券売却損益などは、第1四半期に見込んでいたものであり、第2四半期以降は同水準の損益を見込んでいません。また、第一フロンティア生命やTALの会計利益は、金利変動の影響を受けるため、今後の国内外の金融環境の推移を見守る必要があると考えます。以上のことから、現時点では通期の業績予想、ならびに配当予想を据え置きとします。
- 16ページをご覧ください。



- 良好な経済環境、新契約の獲得により、グループEEVは増加

## 第一生命グループ(億円、試算値)

	15/3末	15/6末	増減
EEV	57,796	約60,100	約+2,300
修正純資産	55,408	約52,900	約△2,500
保有契約価値	2,388	約7,200	約+4,800

## 第一生命単体(億円、試算値)

	15/3末	15/6末	増減
EEV	57,008	約58,800	約+1,800
修正純資産	57,918	約55,600	約△2,300
保有契約価値	△ 910	約3,200	約+4,100

## 第一フロンティア生命(億円、試算値)

	15/3末	15/6末	増減
EEV	2,527	約2,600	約+100
修正純資産	1,882	約1,300	約△500
保有契約価値	645	約1,300	約+600

- 2015年6月末の保有契約をベースに6月末の経済前提を使ったグループ・エンベディッド・バリューの試算を行っています。
- グループEVは修正純資産が約5兆2,900億円、保有契約価値が約7,200億円で、合計約6兆100億円となりました。2015年3月末に比べ約2,300億円の増加となります。
- 修正純資産は、株価上昇により株式の含み益が増加しましたが、金利上昇による債券の含み益の減少幅の方が大きく、全体で約2,500億円の減少となりました。
- 一方で、金利上昇は保有契約価値を増加させます。保有契約価値は、金利上昇の影響と、新契約の獲得により、約4,800億円増加しました。
- グループ各社のEVを、本ページの下段と、次の17ページにお示ししています。各社とも、EVは増加しました。
- 以上で私からの説明を終了させていただきます。

## TAL(億円、試算値)

	15/3末	15/6末	増減
EEV	2,378	約2,400	約+100
修正純資産	1,237	約1,300	約+100
保有契約価値	1,141	約1,100	約△0

15/3末EEV: 15/3末の為替レート(1豪ドル=92.06円)を使用

15/6末EEV: 15/6末の為替レート(1豪ドル=93.93円)を使用

## TAL(百万豪ドル、試算値)

	15/3末	15/6末	増減
EEV	2,583	約2,600	約+0
修正純資産	1,344	約1,400	約+100
保有契約価値	1,239	約1,200	約△100

## プロテクティブ(億円、試算値)

	15/2/1	15/3末	増減
EEV	5,029	約5,400	約+300
修正純資産	3,517	約3,800	約+300
保有契約価値	1,512	約1,600	約+0

15/2/1EEV: 15/1末の為替レート(1米ドル=118.25円)を使用

15/3末EEV: 15/3末の為替レート(1米ドル=120.17円)を使用

## プロテクティブ(百万米ドル、試算値)

	15/2/1	15/3末	増減
EEV	4,253	約4,500	約+200
修正純資産	2,974	約3,200	約+200
保有契約価値	1,278	約1,300	約+0

## 参考データ

損益計算書(1)

(億円)

	15/3期 1Q	16/3期 1Q	増減
経常収益	11,395	11,600	+204
保険料等収入	7,567	7,252	△315
資産運用収益	2,999	3,307	+308
うち利息・配当金等収入	1,925	2,033	+108
うち有価証券売却益	721	938	+216
うち特別勘定資産運用益	302	213	△89
その他経常収益	828	1,040	+212
経常費用	10,169	10,241	+71
うち保険金等支払金	6,246	7,790	+1,543
うち責任準備金等繰入額	1,639	21	△1,618
うち資産運用費用	350	655	+304
うち有価証券売却損	46	129	+82
うち有価証券評価損	3	14	+10
うち金融派生商品費用	25	192	+166
うち事業費	935	934	△0
経常利益	1,226	1,359	+133
特別利益	0	0	△0
特別損失	46	52	+6
契約者配当準備金繰入額	204	229	+25
税引前純利益	976	1,077	+101
法人税等合計	295	308	+12
純利益	680	768	+88

貸借対照表

(億円)

	15/3末	15/6末	増減
資産の部合計	368,287	367,829	△458
うち現預金・コール	10,187	8,050	△2,137
うち買入金銭債権	2,597	2,525	△71
うち有価証券	306,733	309,241	+2,508
うち貸付金	30,292	29,407	△885
うち有形固定資産	12,032	12,044	+11
うち繰延税金資産	-	-	-
負債の部合計	332,774	333,241	+467
うち保険契約準備金	304,496	303,917	△578
うち責任準備金	298,409	298,098	△311
うち危険準備金	5,580	5,625	+45
うち退職給付引当金	3,894	3,884	△9
うち価格変動準備金	1,324	1,364	+40
うち繰延税金負債	4,138	3,571	△566
純資産の部合計	35,513	34,588	△925
うち株主資本合計	11,073	11,369	+296
うち評価・換算差額等合計	24,432	23,211	△1,220
うちその他有価証券評価差額金	24,886	23,685	△1,200
うち土地再評価差額金	△334	△340	△6

(1) 特別勘定資産運用損益は、責任準備金の戻入れ/繰入れで相殺されるため、経常利益に影響するものではありません

損益計算書

(億円)

	15/3期 1Q	16/3期 1Q	増減
経常収益	4,583	4,890	+306
うち保険料等収入	4,039	4,317	+278
うち資産運用収益	544	573	+28
経常費用	4,597	4,546	△51
うち保険金等支払金	887	1,487	+600
うち責任準備金等繰入額	3,454	2,806	△647
うち資産運用費用	34	18	△16
うち事業費	198	210	+12
経常利益(△は損失)	△13	343	+357
特別損益	△3	△5	△2
税引前純利益(△は損失)	△17	338	+355
法人税等合計	0	28	+28
純利益(△は損失)	△17	309	+326

貸借対照表

(億円)

	15/3末	15/6末	増減
資産の部合計	49,372	52,612	+3,239
うち現預金・コール	813	889	+76
うち有価証券	47,154	50,135	+2,981
負債の部合計	48,798	51,912	+3,113
うち保険契約準備金	48,116	50,923	+2,806
うち責任準備金	48,070	50,874	+2,803
うち危険準備金	1,203	1,159	△44
純資産の部合計	574	700	+126
うち株主資本合計	184	494	+309
資本金	1,175	1,175	-
資本剰余金	675	675	-
利益剰余金	△1,665	△1,355	+309

損益計算書<sup>(1)(2)</sup>

(百万米ドル)

	16/3期 1Q
経常収益	1,837
保険料等収入	926
資産運用収益	735
その他経常収益	176
経常費用	1,744
保険金等支払金	1,002
責任準備金等繰入額	432
資産運用費用	22
事業費	114
その他経常費用	172
経常利益	92
法人税等合計	29
純利益	62

貸借対照表<sup>(1)(2)</sup>

(百万米ドル)

	15/2/1	15/3末	増減
資産の部合計	70,966	71,045	+78
うち現預金	463	465	+2
うち有価証券	53,287	53,398	+111
うち貸付金	7,333	7,327	△5
うち有形固定資産	111	111	△0
うち無形固定資産	2,712	2,694	△18
うち のれん	735	735	-
うち その他の無形固定資産	1,959	1,943	△16
うち再保険貸	202	200	△2
負債の部合計	65,412	65,720	+308
うち保険契約準備金	58,844	59,060	+216
うち再保険借	252	231	△20
うち社債	2,311	2,220	△90
うちその他負債	2,338	2,670	+332
純資産の部合計	5,554	5,324	△229
うち株主資本合計	5,554	5,616	+62
うちその他の包括利益累計額合計	-	△292	△292

(1) 米国の会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております

(2) 米プロテクトティブの決算日は12月31日です。16/3期1Qの実績は、子会社化(2015年2月1日)以降、同年3月までの2ヶ月間の実績です。

損益計算書(1)(2)

(百万豪ドル)

	15/3期 1Q	16/3期 1Q	増減
経常収益	793	796	+3
保険料等収入	665	690	+25
資産運用収益	59	7	△51
その他経常収益	68	98	+30
経常費用	738	768	+30
保険金等支払金	444	445	+0
責任準備金等繰入額	116	94	△22
資産運用費用	8	56	+47
事業費	141	148	+7
その他経常費用	27	24	△3
経常利益	55	28	△26
法人税等合計	13	0	△12
純利益	42	27	△14
修正利益 (Underlying profit)	33	45	+11

貸借対照表(1)(2)

(百万豪ドル)

	15/3末	15/6末	増減
資産の部合計	6,674	6,693	+19
現預金	924	1,049	+124
有価証券	3,070	2,947	△123
有形固定資産	1	1	+0
無形固定資産	1,235	1,228	△7
のれん	786	786	-
その他無形固定資産	449	442	△7
再保険貸	116	121	+5
その他資産	1,326	1,345	+19
負債の部合計	4,641	4,633	△8
保険契約準備金	3,340	3,375	+34
再保険借	335	310	△24
その他負債	859	894	+34
繰延税金負債	106	52	△53
純資産の部合計	2,033	2,060	+27
株主資本合計	2,033	2,060	+27
資本金	1,630	1,630	-
利益剰余金	402	429	+27

(1) 連結対象の豪持株会社(TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd)に係る数値

(2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております(修正利益を除く)

	感応度 <sup>(1)</sup>	含み損益ゼロ水準 <sup>(2)</sup>
国内株式	日経平均株価 1,000円の変動で 1,700億円の増減 (2015年3月末:1,700億円)	日経平均株価 ¥9,200 (2015年3月末:¥8,900)
国内債券	10年国債利回り 10bpの変動で 2,500億円の増減※ (2015年3月末:2,600億円)  ※その他有価証券区分:300億円の増減 (2015年3月末:300億円)	10年国債利回り 1.2%※ (2015年3月末:1.2%)  ※その他有価証券区分:1.4% (2015年3月末:1.4%)
外国証券	ドル/円 1円の変動で 290億円の増減 (2015年3月末:310億円)	ドル/円 \$1 = ¥100 (2015年3月末:¥100)

(1) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度

(2) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロになる水準



本資料の問い合わせ先  
第一生命保険株式会社  
経営企画部 IR室  
電話:050-3780-6930

## 免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命保険株式会社(以下「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。